



炬火を掲げていざ謳う

No.74



我々の泉鳥取

2024年4月23日 (月)

編集 泉鳥取高等学校閉校記念事業実行委員会

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>



戦前の砂川奇勝

料理旅館 砂川荘

— 歓送迎会に 部活動合宿に —

JR和泉砂川駅の山手側改札を出て山の手を見上げると、「〇〇研修センター」という建物が見えます。ここには昔、料理旅館「砂川荘」がありました。料亭と旅館を兼ねた施設で、泉鳥取高校はよくお世話になったのです。

和泉砂川駅と砂川奇勝と料理旅館

1930(昭和5)年、現在の阪和線の原型となる「阪和鉄道」が開通しました。当時、和泉砂川駅の近くには「砂川奇勝」と呼ばれる名所がありました。広大な範囲にひろがる松と砂岩が起伏をみせて連なるその様子は、日中は太陽に、夜は月の光に照らされて、まるで雪のように真っ白に輝き、人々を魅了しました。そんな観光地和泉砂川に割烹旅館としてスタートしたのが「砂川荘」でした。

昭和の末期、まだまだ泉南地域に大規模な宴会のできる施設があまりなかったころ、教職員の歓送迎会や忘年会は、隔年で「砂川荘」を利用しました。しかし、「砂川荘」を最も活用したのは、宴会ではありませんでした。

旅費のない中 合宿所として活用

臨海訓練や家庭訪問、就職希望者の求人開拓のための企業訪問など、当時の泉鳥取高校は教職員の旅費が足りない状況が続いていました。そんな中、部活動は活発で、男女バレーボール部、硬式テニス部、サッカー部、バスケットボール部、吹奏楽部など強化合宿を行う部活動も多くあったのです。

しかし、遠隔地に行くほどの教職員の旅費予算はありません。そこで、学校から最も近い宿泊施設である「砂川荘」に宿泊し、練習は学校で行う、と

いった合宿スタイルが出来上がりました。また、生徒会のリーダー合宿を行っていたこともあります。

往復の交通費がかからない「砂川荘」は誠に便利な宿泊施設でした。しかしその後、臨海訓練が廃止され、学校旅費にも余裕が出てきて、「砂川荘」は生徒の合宿施設としては、次第に使われなくなっていきました。砂川荘は2000年前後には営業を停止し、すでに取り壊されています。下の写真は、営業終了後に撮影されたものです。



1977(昭和52)年歓送迎会

乾杯をする初代石川校長

